

## 7 業務のまとめと今後に向けて

### ○ まとめ

オリパラ会場周辺 17 地区で 2017 年以降 5 年間（3 地区は 2019 年以降 3 年間）にわたって、暑熱環境を精度の高い測定機器により実測し、WBGT を算出・蓄積することができた。オリパラ競技開催前の 2020 年までの 4 年間のデータについては、組織委員会など大会関係者に提供することで、オリパラ開催時の暑熱環境について事前に把握してもらうことができた。

2020 年までの測定では、合わせて、観客・スタッフ対策として草地・コンクリートという地表面状態の違い、日なた・日陰という日差しの有無について高精度でかつ小型の携帯型機器を用いて長期間 WBGT の連続測定を行うことで、暑熱緩和対策などに有効なデータを得ることができた。

また、オリパラ開催までの期間に、測定データを用いて会場周辺の明後日までの WBGT 予測技術を開発することができた。

2021 年のオリパラ開催期間には、オリパラ会場周辺の実況値及び予測値の状況提供が行われた。また、携帯型測定機器を会場内など複数個所に設置し、測定結果をリアルタイムで組織委員会及び会場関係者などがモニターできる仕組みを導入し、スタッフなどの暑熱対策に有効に活用してもらうことができた。

5 年間の暑熱環境測定からは、毎年盛夏期に厳しい暑熱環境が現れ、その時期は年によって違うことから、オリパラのような大規模イベントばかりではなく、夏期の様々なイベントなどで実際の測定を含めた暑熱対策の重要性が示された。

### ○ 今後に向けて

今後も夏期には屋外での大規模なイベントなどが想定されることから、本業務での測定結果や解析結果が有効に活用されることが期待される。

また、本業務で確認された日差しを遮ることによる暑熱環境緩和の効果は、スポーツイベント等にかぎらず、広範な熱中症対策などにも有効な情報である。

このため、測定結果などを公開して利用しやすくすることで、様々な暑熱対策、研究に貢献することが望まれる。